

ラジオ相談番組における司会者の役割と言語行動

星野 祐子*

The Role of Emcee on a Radio Advice Program

HOSHINO Yuko

abstract

This paper aims to describe the discourse structure of a radio advice program called "Telephone JINSEI SODAN" and the role its emcee plays in the program. Each episode of this long-running call-in show involves an adviser, an advisee and an emcee and centers on the advisee's problem.

The 20-minute program can be divided into 5 phases. I . Opening remarks; the emcee and the advisee exchange greetings and the advisee acknowledges the opportunity to gain useful information; II . Unfolding the problem; utilizing a Q-A format, the emcee induces the advisee to describe his/her problem. The emcee then makes the gist of the issue and introduces the adviser over the phone; III . Advising; the adviser counsels the advisee on what to do; IV . Summarizing; the emcee intervenes and wraps up the previous advice-giving; V . Closing remarks: the emcee and the adviser greet each other and the advisee expresses his/her gratitude again. The emcee takes part in Phases I , II , IV and V but not in Phase III . As a program host, the emcee uses discourse markers that facilitate a shift from one phase to the next. Such discourse markers include "ja", "de", and "hai".

Keywords : radio advice program, emcee, discourse analysis, discourse structure, discourse marker

1. はじめに

現在、様々なメディアにおいて、読者や視聴者の投稿・参加によって成り立つ相談コーナー、相談番組を目にする。新聞紙上でも日曜を除く毎日、人生相談コーナーが掲載され、ラジオにおいても、子ども向けの相談、医療相談、心理相談と、様々な世代と悩みを対象にした番組が組まれている。テレビにおいても、視聴者参加型の相談コーナーはしばしば放送され、全国から寄せられる相談に芸能人が回答する番組・コーナーの気持ちは高いものがある。また、新聞・ラジオ・TVといった従来のメディアに加え、近年はウェブ上でも新聞社や医療機関などにより相談コーナーが設けられ、利用者同士で話し合ったり、見識者や専門家が相談に答えたりと、“公開された”相談を目にする機会は実に多い。

このように、現在あらゆるメディアにおいて相談番組というジャンルの確立が認められるが、その中には十数年に渡って放送されるものもあり、本稿で扱うラジオ番組『テレホン人生相談』はその代表的なものである。そして、こうした長寿番組には、番組の進行に関わる決まった型があり、定型とも呼ぶべきその型が、番組としての安定感を与えている。また、相談に決まった展開パターンがあることで、一般人である相談者も、また聴取者も、相談の手順を思い浮かべながら参加、聴取することができる。

キーワード: ラジオ相談番組、司会者、談話分析、談話構造、談話標識

*平成15年度生 国際日本学専攻

本稿では、その番組の安定感を支える一つの要因として、進行を司る司会者に着目、進行の手だてや、相談及び回答を円滑に行うための言語行動について分析を行う。

2. 先行研究

相談の談話構造に注目したものとしては、能田（1996）、柏崎・足立・福岡（1997）、鈴木（2002、2003）等がある。柏崎・足立・福岡（1997）は、自然談話を用い、対等の力関係の会話参加者が相談をどのように行っているかを明らかにした。また、能田（1996）、鈴木（2002、2003）はラジオの相談番組を用いたもので、相談の談話全体を分析対象とし、相談開始から終了までの展開過程や、開始部・主要部・終了部の各局面における会話参加者の発話特徴を詳細に分析した。相談談話の対照言語学的研究には、阿部（2001、2004）、大瀧（1993）がある。

また、本稿で分析対象とする司会の機能に注目したものには、本田（2004）がある。しかし、相談番組における司会者の言語行動に注目する研究は管見のところない。

3. テレホン人生相談の談話構造

ラジオ番組『テレホン人生相談』は、ニッポン放送をキーステーションに、全国で放送されている相談番組である。放送開始は1965年で、既に40年に渡って聴取者の悩みを扱ってきた。相談内容は、人生相談や法律相談等多岐に及び、毎回、それぞれの相談に通じている専門家・見識者が助言者として登場する。また、本稿で注目する司会者であるが、現在は4名の司会者が日替わりで相談の進行を担っている。

なお、番組進行に関しては決まったパターンがあり、相談者との会話における助言者と司会者の切り替わりが、番組の流れと多分に関係している。以下に、番組の流れと各区分に相談の進行について関連づけた図を示す。

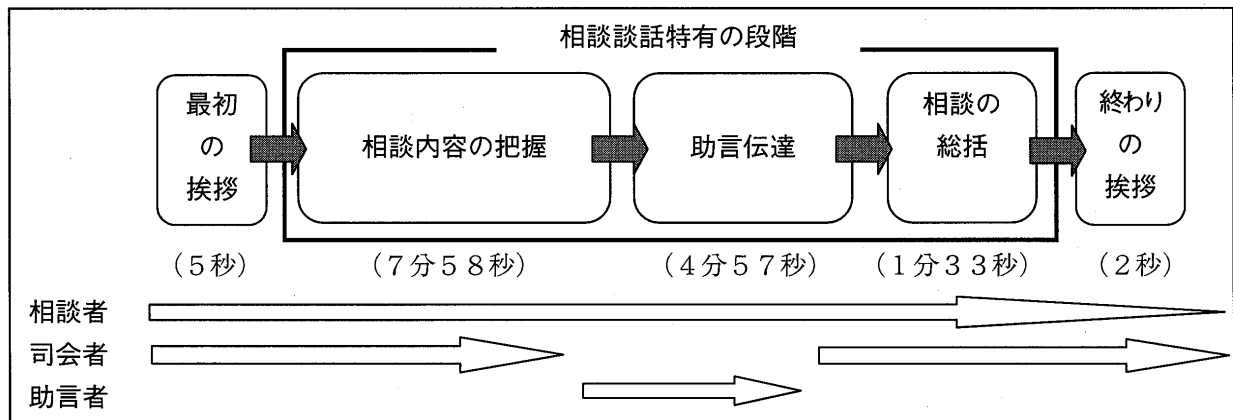


図1 会話参加者と番組進行との関連（2002/08/13放送分の場合）

図1は、テレホン人生相談の番組進行と各段階に参加する会話参加者の参与状況を図示したもので、各段階の下部に示した時間は、ある日の相談（2002/08/13）における各段階の所要時間である。もちろん、相談内容によって各段階の所要時間は変わってくるものの、基本的な流れと会話参加者の参与状況は変わらない。また、図1に示した5段階には、さらに下位の段階が想定できるが、ここでは大きく5つに区分し、「相談内容の把握」、「助言伝達」、「相談の総括」の3段階を相談談話の特徴づける段階であるとみなす。

まず、「相談内容の把握」の段階においては、一問一答形式により、相談に必要な基本的事実の確認がなされる。具体的なやりとりは後掲するが、ここでは次段階である「助言伝達」が効率的に行われるよう、司会者は巧みな聞き出しと情報整理を行っている。続いて「助言伝達」場面であるが、本場面は、司会者によって整理された相談内容をもとに助言者が実質的な助言を行う場面である。そして、最後の「相談の総括」に至って、改めて司会者が登場し、前段階でのやりとりをふまえた総括がなされる。

以上が、相談談話の特徴づける3段階であるが、本稿では、次段階へのスムーズな移行と効率的な相談を行うために、司会者がどのような言語行動をとっているのかを分析する。

4. 分析

4. 1. 相談内容の把握 (1) —いかに聞き出すか—

4. 1. 1. 聞き出しパターンの定型化

『テレホン人生相談』には立場の異なる三者が登場するが、相談者は一般聴取者であり、相談番組への出演は不慣れである。そこで、司会者は相談内容の聞き出しを効果的に行うために、聞き出しパターンの定型化を行う。①はそのパターンの定型化が最も顕著に行われたもので、「質問」「回答」の主となるやりとり「繰り返し確認」「承認」の連鎖が随時追加され、合間に「あいづち」が挿入されるという、非常に簡素化したやりとりが行われている。

① 夫の借金について解決法を知りたい49歳女性の相談 (2002/9/18)

1	司会者	もしもし。	最初のあいさつ	
2	相談者	もしもしー。		
3	司会者	はい、テレホン人生相談です。		
4	相談者	よろしくお願ひします。		
5	司会者	はい、どうぞ。		
6	司会者	最初に年齢教えて下さい。	質問①	質問
7	相談者	えーと、わたくし、49です。	年齢	回答
8	司会者	結婚してます？。	質問②	質問
9	相談者	はい。	結婚の有無	回答
10	司会者	ご主人何歳ですか？。	質問③	質問
11	相談者	50歳です。	夫の年齢	回答
12	司会者	50歳。		繰り返し確認
13	相談者	はい。		承認
14	司会者	お子さんは？	質問④	質問
15	相談者	えっとー、長男が23。	子どもの年齢	回答
16	司会者	はい。		あいづち
17	相談者	長女が17です。		回答
18	司会者	17？		繰り返し確認
19	相談者	はい。		承認
20	司会者	で、どういう相談ですか？	質問④	質問
21	相談者	主人の借金についてなんですけれども、	相談内容	回答
22	司会者	はい。		あいづち
23	相談者	えーと、カードローンとかで、		回答
24	司会者	ええ。		あいづち
25	相談者	大分、金額が張ってしまっー。		回答
26	司会者	大分とは、具体的にはいくらぐらい。	関連質問④-1	質問
27	相談者	800万。		回答
28	司会者	800万。		繰り返し確認
29	相談者	はい。		承認
30	司会者	それはいくつぐらいの会社からですか。	関連質問④-2	質問
31	相談者	十近くです。		回答
32	司会者	十近くの会社。		繰り返し確認
33	相談者	はい。		承認
34	司会者	それで、この800万は、どういうふうにご主人使っているわけですか。	関連質問④-3	質問
35	相談者	最初はギャンブルだと思うんですけども。		回答

36	司会者	具体的には？。	関連質問④ - 4	質問
37	相談者	えーとパチンコ。		回答
38	司会者	パチンコ。		繰り返し確認
39	相談者	はい。		承認

司会者は、このように聞き出しパターンの定型化を行うことで、一質問に対する相談者の回答負担を軽減する。さらに、場合によっては相談者発話の「繰り返し確認」を行い、相談者から「承認」を得ることで、引き出した情報の確実な把握を試みる。また、各質問を関連づけるために、相談者からなされた直前発話の部分引用を行ったり（26）、指示詞を用いたりして（30、34）直前の発話と関連があることを明示する。逆に、各質問項目が独立しているような家族構成等の確認（6～19）においては、前質問との関連を明示する言語形式は用いていない。また、談話レベルにおいても、場面の転換を示唆するマーカーがみられる。最初のあいさつから家族構成等の基礎的な質問への移行は「最初に」によりマークされ、相談内容の核心部分となる質問を始める際は「で」により、先行やりとりとの転換が図られる。

4. 1. 2. 理解の態度の明示

電話相談会話には、あいづちが多いことが指摘されているが（小宮 1986）、②は司会者が適度にあいづちを挿入し、相談者の打ち明け話に“聴いている”という態度を積極的に示したものである。確かに①のような一問一答形式では、相談者が長く turn を保持することはなく、司会者によるあいづちの頻度はそれほど高くないのだが、本例では、相談者の一発話が長いことから、司会者が挿入するあいづちも増えている。

② 夫の借金について、自己破産すべきか否か悩んでいる女性の相談（2002/09/02）

1	司会者	もしもし、テレホン人生相談です。	最初のあいさつ	
2	相談者	はい、よろしくお願いします。		
3	司会者	こんにちは。		
4	相談者	こんにちは。		
5	司会者	どうのご相談ですか？。	質問① 概略	質問
6	相談者	えっと、ちょっと、主人の自己破産のことで、お伺いしたいんですが、		回答
7	司会者	ええ。		あいづち
8	相談者	えーと、仕事の関係ですね、		回答
9	司会者	はい。		あいづち
10	相談者	借金が増えてまして、ちょっとやっぱりそれでも、毎月がきついもんですから、		回答
11	司会者	うん。		あいづち
(中略)				
62	相談者	(中略) 主人の名義の分だけを、	具体的質問への 移行段階	回答
63	司会者	うん。		あいづち
64	相談者	あの、誰か身内って言うんですか、が買い取って、		回答
65	司会者	うん。		あいづち
66	相談者	うちを処分せずに、		回答
67	司会者	うん。		あいづち
68	相談者	自己破産するってことはできないかなって。		回答
69	司会者	なるほどー、あー、はい。		理解表示
70	相談者	ええ。		あいづち
71	司会者	はい、具体的な、あの、ご質問ですよ。		質問内容の印象
72	相談者	ええ。	あいづち	
73	司会者	今日は、ぴったり、弁護士のS先生がね、	進め方の予告	
74	相談者	はい。	あいづち	
75	司会者	お出でですから、もう、じっくり、その辺伺ってください。	進め方の予告	
76	司会者	あの、S先生に替わる前に、少し、ご家庭のこととか、	進め方の予告	

77	相談者	はい。		あいづち
78	司会者	あの、お仕事のこととかね、		進め方の予告
79	相談者	はい。		あいづち
80	司会者	もうちょっと、補足的なことを伺っていきたく思いますけれども。		進め方の予告
81	相談者	はい。		あいづち
82	司会者	ご主人は、どういう種類のお仕事をなさってる方ですか？。	質問② 主人の仕事	質問
83	相談者	あの、自営ですけど。		回答
84	司会者	あの、経営が危なくなっただのは、いつぐらいからでしょうかね？。	関連質問②-1 経営状況	質問

以上のように、司会者によるあいづちの適度な挿入は、打ち明け話を行う相談者に安心感を与える。また、積極的な「理解表示」である「なるほど、あー、はい」(69)は、打ち明け話の終了を待って挿入され、その結果として、69以降、司会者の発話量が相談者のそれを超えることになった。つまり、「なるほど、あー、はい。」(69)は、相談者がturnを維持していた時に挿入していたあいづちとは異なり、司会者によるturn取得の事前合図として機能していると考えられよう。

もちろん、ここで司会者によるturnの取得が成功したのは、引用形式「って」を伴う相談者の発話に、発話の区切れが感じられたことであろうが、相談内容の聞き出しにおいて、その場の進行を担う司会者があいづちとは異なる積極的な理解を示したということは、相談者にとっては一連の発話終了のシグナルとして認識されるのである。

4. 1. 3. 発話不備の支援

②では、司会者が相談者の打ち明け話に適度なあいづちを送り、発話理解を積極的に明示するマーカーを使用することで、相談者の一連の発話の終了が示唆されていた。そして、両者合意の下、司会者主導による「補足的なこと」(80)の質問段階へ移行する。

しかし、多くの相談者が、相談内容の打ち明け話を効率よく行えるわけではなく、発話内容に不備が見られることもままある。その際は、司会者による介入が入ることが多い。次に挙げる例は、伝達事項を上手く伝えられないでいたり、次のことばが見つからない相談者を支援する例である。

③ 息子がサラ金に手を出し返済能力がない。破産の手続きはどうしたらいいのかと悩む65歳女性の相談 (2002/09/10)

169	司会者	で、その使った使い道は？
170	相談者	使い道は、
171	司会者	うん。
172	相談者	結局一、返すのに、
173	司会者	うん。
174	相談者	なんちゅうんですか、自転車操業って言うんですか、
175	司会者	ああ、雪だるま式に[なってしまったのはわかるんだけど、
176	相談者	[ええ、そうそうそうそう。
177	司会者	ええ。

本例では、「なんちゅうんですか、自転車操業って言うんですか」(174)と借金の使い道を形容するよりよい表現を探している相談者に対して、司会者が「雪だるま式」(175)と上手く言い表した時のやりとりである。ちなみに、176の「ええ、そうそうそうそう。」という同意の発話は、司会者の先行発話「なってしまった～」以降と重なっており、司会者が発した表現が相談者にとって非常に的を射た表現であったことが推測される。

続く④、⑤は、言いよどみにより次の発話が続かなくなった相談者に対して、司会者が機転を利かせ、容易に答えられるような質問を施した例である。

④ 前夫が住宅ローンを払えないとのことで、自宅の立ち退きを迫られている 41 歳女性の相談 (2002/09/13)

1	司会者	もしもし。
2	相談者	はい。
3	司会者	はい、テレホン人生相談です。
4	相談者	はい、こんにちは。
5	司会者	はい、どうぞ。
6	相談者	えっとー、2年半ぐらい前に離婚したんですけども…。
7	司会者	はい。
8	司会者	／少し間／あの、最初に年齢を教えてください。【ください】。
9	相談者	[あつ、はい。]
10	相談者	41 歳です。
11	司会者	41 歳。

⑤ 最近無気力だと訴える 48 歳男性の相談 (2002/09/18)

1	司会者	もしもしー、テレホン人生相談です。
2	相談者	はい。
3	司会者	はい、今日はどういうご相談ですか？。
4	相談者	最近ですね、
5	司会者	はい。
6	相談者	楽しみっていうか、
7	司会者	はい。
8	相談者	それから希望とかですね、
9	司会者	はい。
10	相談者	そういうのが持てなくなってきたんですよ。
11	司会者	はい。
12	相談者	それでー…。
13	司会者	えーと、おいくつですか？。

例えば、④では、6の発話末「けれども」の直後に、司会者が「はい」(7)とあいづちを返し、相談者の話を待つ姿勢を見せていたが、結局、接続助詞「けれども」以降に相談者の発話が続くことはなく、多少の沈黙を経て、司会者主導による基本的な事実の確認が始まった。⑤でも同様で、12で「それでー」の語末が延ばされ、turnの保持が可能であったのだが、沈黙を契機に司会者主導による基本的な事実確認が13より始まった。

以上のように、相談出演慣れしていない一般人の発話を受け、相談者が無理なく番組に参加できるよう柔軟に進行の方法を変えるのも司会者の大事な役割であるといえる。

4. 2. 相談内容の把握 (2) 一引き出した情報をいかにまとめるかー

相談内容把握の初期段階にあたっては、談話例①のように、司会者主導によりやりとりが進められることが多い。その場合、質問・回答で構成されるパターンがいくつか連鎖し、一やりとりで得られた情報は断片的である。そこで、司会者には、助言者への引き継ぎ以前に、前出のやりとりをまとめ、情報を整理することが要求される。

⑥ 息子に定職に就いてもらいたい 54 歳男性の相談 (2002/08/13)

193	司会者	でも専門学校に行ってたってということは、手に専門職持ってらっしゃるわけね？。
194	相談者	コンピュータ関係は。
195	司会者	あー、なるほど、わかりました。
196	司会者	えー、そうしますと、お父様が、あなたの思いで、
197	相談者	ええ。
198	司会者	坊ちゃんに、いわゆるどこかの会社のサラリーマンになって欲しいと思うから、
199	相談者	うーん。
200	司会者	そういうことについて、説得をするにはどうしたらいいかということ、今回ご相談になっているわけ？。

201	相談者	はい。
(中略)		
215	司会者	でも一、今、あの一、若い方達がフリーターで、結構稼いで、自由に生活してる人が多いってことはご存じですよ。
216	相談者	ええ、だいたい知ってます。
217	司会者	そうですね。
218	相談者	はい。
219	司会者	じゃあ、どういう風にしたらいいかみたいなお話を、
220	相談者	はい。
221	司会者	今日はですねー、
222	相談者	ええ。
223	司会者	えー、木彫家でシンガーソングライターのTさんがいらしてますので、
224	相談者	はい。
225	司会者	うかがってみたいと思います。

⑦ 20年前に刑務所に入った父のことを、自分の子どもに話すべきかと悩む53歳女性の相談 (2002/08/28)

133	相談者	会社が、なかなか、あの、就職難とか言うんでね。
134	司会者	うーん、そりゃ、影響がないようにしたいですよ。
135	相談者	そうです。
136	司会者	で、できれば、お母さんが、そういうね、
137	相談者	はい。
138	司会者	彼らにとってお祖父さん、
139	相談者	はい。
140	司会者	の、あの、果たして、そのお祖父さんの、あの過去のことをですね、
141	相談者	ええ。
142	司会者	あなたのお子さん達、これから将来のあるですね、
143	相談者	はい。
144	司会者	就職もある、進学もあるかもしれない子達に、今のうちに話しておくべきかどうかと、
145	相談者	はい。
146	司会者	ということがお悩みなんです。
147	相談者	そうです。
148	司会者	そのことがね。
149	相談者	はい。
150	司会者	そいじゃあ、あの、弁護士のS先生に替わりますから、
151	相談者	はい。
152	司会者	じっくり、お話し合ってみてください。

⑥も⑦も、各談話例の直前まで個別の質問がなされており、その後、司会者により助言者への引き継ぎを意図した相談のまとめが始まっている。

例えば、⑥では、「あー、なるほど、わかりました。」(195)が、司会者牽引のまとめ移行のシグナルとして機能している。そして、前発話との関連を意識した談話標識「えー、そうしますと」(196)の後、相談内容のまとめ、情報の整理が続いた。また⑦では、子ども達の就職を案じる母親に同意の態度を示した後、話の転換を示す談話標識「で」(136)を用い、個別質問の段階から総括の段階に移行・転換することをマークしている。

さらに、⑥「えー、そうしますと」(196)や⑦「で」(136)で始まる発話の発話末は、それぞれ「わけ？」(200)、「ですね」(146)といった確認要求の機能を持つ表現で終止しており、司会者が把握した相談内容を再度相談者に問う形がとられている。なお、⑦では、「ということがお悩みなんです。」(146)と、相談者に相談内容を確認した後、再び148で繰り返し確認を行っている。

以上、相談内容を要領よく整理し、司会者と相談者の間に相談内容についての共有の認識を設けることが、助言者登場以前の司会者の役割として重要であることがうかがえる。

4. 3. 相談の総括—助言内容をいかにまとめるか—

相談の総括は、助言者と相談者のやりとりを静聴していた司会者が再び助言者に替わって登場する場面である。まず、登場の契機としては、a「助言者・相談者の話し合いに深まりがみられた時」があり、この登場の形態は、a-1「助言者による呼名により登場する場合」と、a-2「司会者自らが判断してturnを取得する場合」の二種類に下位分類される。また、番組である以上、b「時間的制約により総括を始めなければならない時」もある。ここでは、呼名による参与パターン（a-1）以外、つまり、司会者自らが判断して発話場に参与した場合を取り上げる。

⑧ PTSDで悩みその治療法を知りたい56歳女性の相談（2002/08/26）

394	助言者	ぜひ、そうなすってみて下さい。
395	相談者	そしたら、地域の保健センターで。
396	助言者	ええ、保健センターがいいですね、はい。
397	相談者	はい、わかりました。
398	司会者	よろしいですか？。
399	相談者	はい。
400	司会者	今、T先生にほんとにいいアドバイスを受けられましたよね。
401	相談者	はい。

a-2パターンである⑧は、相談者の内容理解表示「はい、わかりました。」(397)を受け、「よろしいですか？」(398)と発話のイニシアチブ取得を宣言した司会者が、400以降、助言者Tの発話をふまえた相談の総括を行ったものである。なお、「4. 1. 2. 理解の態度の明示」で取り上げた②の例文では、相談者発話に挿入された司会者発話「なるほど、あー、はい」(69)が、司会者主導による場面の始まりを示唆していたが、ここでは、相談者の「わかりました」が、司会者の参与のきっかけを与えている。つまり、あいづちとは異なる言語化された理解表示が、主となる発話者の切り替えに多分に関与していることが理解される。

また、以下は、助言者とのやりとりに納得した態度を見せない相談者に対して、司会者が話を意図的に展開し、終了に導いたものである。本例はbパターンに属する。

⑨ バングラディッシュ人の前夫に慰謝料を要求したい40歳女性の相談（2006/08/22）

475	助言者	ええ、取れないものは、取れないし、ないところからは取れないんだってことは割り切らないとしょうがないですね。
476	相談者	あー、はい。
477	司会者	もう、そのバングラディッシュの彼のことは、もう諦めましょう。
478	相談者	はい。
479	司会者	まだ、いろいろ、あの、彼からこれ以上むしり取られない分だけでも、良かったと。
480	相談者	／少し間／あー、はい。
481	司会者	うん、こりゃ悪い夢見たと思わなきゃしょうがないですね。
482	相談者	あー、そうですか。

本例の相談者は、助言者の助言内容（475）に対して、形式的には「あー、はい」（476）と受け入れの姿勢を見せたものの、低く覇気のないトーンで発せられた「あー、はい」には、助言内容に関しての不満を言語化できないもどかしさを感じることができる。

そこで、477以降、前向きな解釈を提示し、相談者の考えの転換を図ったのが、番組進行を任された司会者である。「諦めましょう」（477）という積極的な働きかけや「(お金を) これ以上むしり取られない分だけよい」（479）という発話に前向きな考えの促しがを認めることができよう。このように、回答に不満を見せる相談者に考えの転換を促したり、勇気を与えたりする場面は相談終了部においてしばしばみられる。もちろん、相談者からすれば、無理矢理納得させられた感があるかもしれないが、平行線を辿るやりとりに何らかの決着をつけることも、番組進行上不可欠なのである。

5. 特徴的な談話標識

最後に、司会を遂行するにあたって、司会者がどのような談話標識を使用しているかを分析する。ここでは、まず、前掲の例文に類出する「で」と「じゃ」を取り上げ、続いて、相談の総括から最後のあいさつに移行する際にみられた「はい」について取り上げる。

5. 1. 「で」と「じゃ」

「で」は基本的に場の転換を表す。①では、基礎的情報の聞き出しを終えた司会者が、具体的な相談内容を改めて聞き出す際に「で」(20)を用いている。また、相談内容の総合的な確認の際も「で」はしばしば使用され、⑦は、「で」(136)以降に、司会者主導による相談内容の確認が始まっている。

また、前掲の例文にはないが、「で」は、前出の話題を再び取り出す時にも使用される。例えば⑤で取り上げた相談には、「で、えー、最近っておっしゃいましたけれども、今までには、なんか楽しみはあったんですか?。」という司会者発話が、聞き出しもある程度進んだ段階でみられた。つまり、この「で」は、冒頭部分の相談者発話「最近ですねー」に続く行に、話題を無理なく戻すために使用されている。

一方の「じゃ」は、転換というより、直前やりとりを受けそれを次段階へ進めることを暗示する際に使用されている。先行やりとりをふまえた次段階移行のマーカースとして考えることができよう。司会者が、⑥の219、⑦の150のように、相談内容確認から助言者紹介の際に「じゃ」を使用するのも納得がいく。

5. 2. 終了を示唆する「はい」

興味深い談話標識として、最後に「はい」を取り上げる。

⑩ ⑥と同例

378	司会者	うん、息子さんもそのうちに、ちゃんと技術があるんだったら、自分で会社興せるかもしれないじゃない。
379	相談者	ええ。
(中略)		
390	司会者	うん、じゃあ、待っててあげて下さいよ。
391	相談者	ええ、わかりました。
392	司会者	はーい。
393	相談者	はい、どうもありがとうございました。
394	司会者	はい、どうもー。

本例は、息子の成長を待つと述べた相談者に対して、「待っててあげて下さい」と返答した司会者とのやりとりの一部であるが、392で単独で発せられた「はーい」は、平板にかつ相対的に低めに発音されるという音調的な特徴を伴い、相談終了のシグナルとして機能している。事実、「はーい」の後、相談者は相談のお礼を述べ、終わりのあいさつの段階に移行している。つまり、相談という場に積極的に関わり、相談内容の把握や助言内容の総括を行っていた司会者が、「はーい」という情報価値の少ない表現を用いたことで、相談の終了、情報提供の終了が暗に伝達されることになるのである。

6. まとめ

以上、相談番組の進行を司る司会者の言語行動について述べてきたが、司会者の配慮としては、相談内容の聞き出しを定型化し相談の流れをわかりやすくすること、談話標識を適宜用い周辺やりとりとの関連を明示することなどが明らかになった。また、各段階には、各段階の目的を達成するために適切な言語形式があり、確認要求の場合は「わけ?」「ですね」といった文末特徴が見られ、次段階移行を意図する際は、「じゃ」、「で」といった談話標識が現れる。

今後の課題としては、「5. 特徴的な談話標識」について、相談者が使用する談話標識と比較することで、司会者ならではの談話標識を明らかにしていきたい。

註

記号の凡例

- ? 疑問の終助詞や語尾上昇などにより質問形式になっているもの。
[複数の参加者の発する音声を重ねて始めている時点を表す。
… 言いよどみを表す。
／少し間／ 1秒以下の間を表す。

参考文献

- 阿部圭子 (2001) 「『助言』のストラテジーの日米比較」『共立国際文化』18 共立女子大学国際文化学部
阿部圭子 (2004) 「助言のディスコース——『日米ラジオ人生相談番組』の事例研究」『共立国際文化』21 共立女子大学国際文化学部
大瀧敏夫 (1993) 「対話の言語行動比較—ラジオ番組 "talknet" と「人生相談」」『金沢大学文学部論集 文学科篇』13 金沢大学文学部
柏崎雅世・足立さゆり・福岡理恵子 (1997) 「インフォーマルな「と」相談における提案の分析」『日本語教育』92 日本語教育学会
小宮千鶴子 (1986) 「相づちの使用の実態—出現傾向とその周辺—」『語学教育研究論叢』第3号 大東文化大学
鈴木香子 (2002) 「ラジオの医療相談の談話の構造分析」『早稲田大学日本語教育研究』1 早稲田大学大学院 日本語教育研究科
鈴木香子 (2003) 「ラジオの心理相談の談話の構造分析」『早稲田大学日本語教育研究』3 早稲田大学大学院 日本語教育研究科
能田陽子 (1996) 「テレビの相談番組の談話構造」『國文目白』35 日本女子大学国語国文学会
本田厚子 (2004) 「テレビ討論における司会者の役割—討論の司会進行はいかになされるか—」『メディアとことば』1 ひつじ書房

(2007年1月12日受理)